

## 最近の症例から (16) ——悪性腫瘍を疑わしめた口蓋部多形性腺腫の一例——

田中瑞穂, 上松隆司

松本歯科大学 口腔外科学第2講座 (主任 山岡 稔 教授)

安東基善

松本歯科大学 口腔病理学講座 (主任 枝 重夫 教授)

患者: 56歳女性.

初診: 昭和63年9月27日.

主訴: 口蓋部の違和感.

家族歴および既往歴に特記事項なし.

現病歴: 昭和55年頃, 某歯科医院にて口蓋部の腫瘤を指摘されたが無症状のため放置していた. 昭和63年9月初旬, 腫瘤表面の潰瘍形成に気づき, 近医耳鼻科を受診し含嗽を指示されたが, 潰瘍の増大傾向を認めたため同年9月27日, 当科紹介により来院した.

全身所見: 特記事項なし.

局所所見:

口腔外所見: 顔貌は左右対称性で, 所属リンパ節は両側顎下部に大豆大で可動性のものを各1個ずつ触知したが, 圧痛は認められなかった.

口腔内所見: 口蓋正中部に21×14×7 mmの腫瘤を認めた. 腫瘤は弾性硬, 境界は明瞭で腫瘤後半部には, 直径5 mm径の円形潰瘍を認めた (写真1).

臨床検査所見: 特記事項なし.

X線所見: 咬合法およびCTにおいて腫瘤相当部口蓋骨の一部にびまん性の骨吸収像が認められた.

臨床診断: 悪性多形性腺腫の疑い.

処置および経過: 同年10月4日, 全身麻酔下にて生検をかねた腫瘍全切除術を施行した. 腫瘍周囲の健常組織を約3 mmを含めて切開を加え, 大口

蓋神経血管束に注意して剝離を行ったところ, 腫瘍相当部口蓋骨に深さ2 mm程の滑沢な骨吸収が認められた. 骨バーにて骨面を一層削除し, 創傷被覆材 (メイバック®) で創面を被覆後縫合し, 同部を硫酸フラジオマイシンガーゼ (ソフラチュールガーゼ®) で保護した後, エルコプレスシーネ®で圧迫した. 術後, 抗生物質静脈内投与と含嗽剤の使用により, 10月12日退院し, 外来にて経過観察した. 術後4週には創部の上皮化が認められた.

病理組織所見: 類円形ないし楕円形の上皮細胞が充実性または索状に増殖し, 大小不整の胞巣を多数形成している. 一部の胞巣には腺腔が形成されており, その内部には好酸性に染まる粘液様物質が認められる (写真2). これらの実質細胞はPAS-Alcian blue染色に陽性を示した. また, 腫瘍は線維性被膜を有しており, 間質には炎症性細胞の浸潤も観察された.

以上の所見より, 多形性腺腫 (MDC 183-88) と診断した.

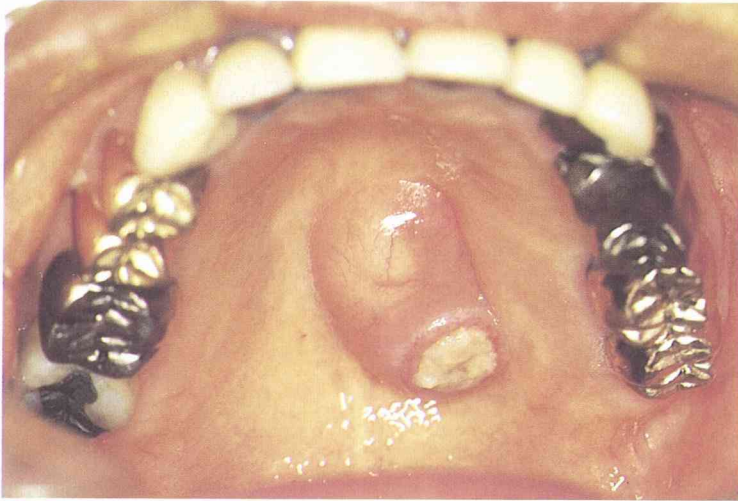


写真 1

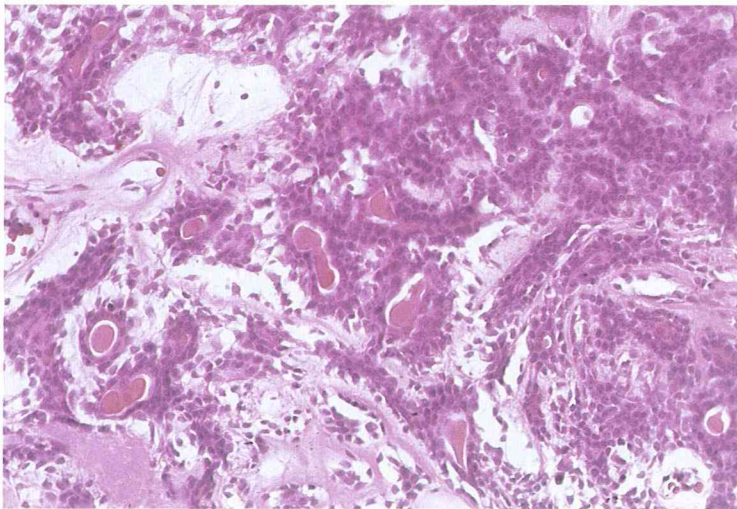


写真 2